

## 湘南藤沢学会「研究助成金 2018」成果報告書

活動名称	Christian Elements in the News: Analyzing the News Coverage of the Great Tohoku Earthquake in Japan, Germany and the USA
補助額	105,000 円
所属/学年	政策・メディア研究科/博士課程 3 年
氏名	佐藤友紀子
学会名	The 28th International Conference On Information Modelling and Knowledge Bases European Japanese Conference 2018
場所/期間	Riga, Latvia (ASTOR Hotel) / 2018 年 6 月 4 日 - 8 日
概要	<p>International Conference on Information Modelling and Knowledge Bases European Japanese Conference(EJC) はコンピューター科学に関連する多様な分野において活動する研究者を集い、情報モデルと知識ベースを構築する理解を深め、問題解決し、その上で研究の成果を実用化することを目指す。本国際学会では、「ドイツ語と英語で発信された東日本大震災 (3.11) 関連のメディア報道におけるキリスト教的要素の使用とその機能」に焦点を当てた研究課題の成果を報告した。研究を進める上でこれまでに構築したデータベースに蓄積されたデータの分析・考察内容を発表し、開発したデータベースシステムとツールの社会における応用性を議論した。また、参加者と本研究テーマを軸とし、ドイツ語と英語に加えて他の発信言語を対象としたメディア比較研究を進め、データベースのコンテンツを拡大する共同研究の可能性について話し合うことができた。</p>
成果	<p><u>1. 研究発表</u></p> <p>本研究では言語が異なることによって、共通するテーマについて報道するニュースコンテンツにどのような違いが現れるのかという問題提起のもと、特にドイツ語、英語、日本語で発信された「3.11」関連報道の収集・分析・比較と考察を進める。報道テキストを分析する際に、ジャーナリストによる宗教言語（キリスト教的要素）の使用に着目し、宗教言語の使用を通して、報道内容がどのように異なって読者に受容され得るのかを考察する。宗教言語に着目しながらニュース報道の発信と受容における内容変化の過程および異文化圏におけるその違いを明らかにすることが本研究の目的である。研究対象をドイツ語圏、英語圏、日本語圏の全国・地方新聞紙に掲載された「3.11」関連記事を分析対象とする本研究では、テキストの分析を行う際にデータベースを用いて、データの蓄積と分析情報の記録を行う。学会発表ではこれまでデータベースに蓄積された宗教言語の傾向とそれらの機能を分析・分類した成果を発表し、データベースを利用したシステムをアプリケーションとして情報の発信者あるいは受容者であるユーザーをサポートする応用性を提示した (図 1)。</p>



(図1) EJC2018 成果発表会場にて

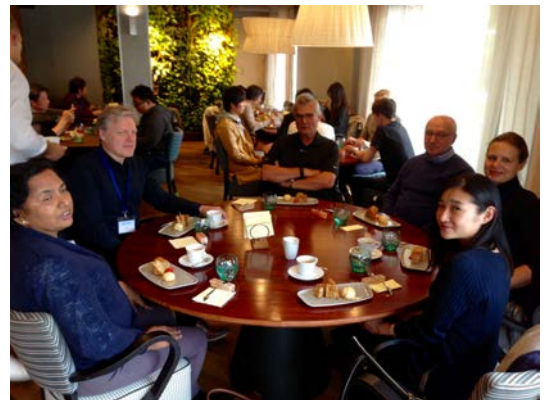
## 2. 議論

発表後、参加者より政治的、経済的な理由だけでなく宗教言語の機能を考察する際に言語と文化の面から、ドイツとアメリカの報道におけるキリスト教言語の使用法の違い、およびその文化や傾向を考慮するよう指摘された。また、ドイツ語を選択した背景やデータベースの情報を共有する方法の説明が質問され、今後の発表で強調すべき点である。

また、「自然言語と人工言語の両者を合わせようとした研究」というコメントがあり、発表の趣旨が伝わったことがうかがわれる。ほかにも、研究の成果に対して、参加者より本研究テーマを主軸に「母語の言語で発信された報道内容を調べ、キリスト教的要素の使用を比較できる」という提案があり、研究を拡大する可能性を話し合うことができた。

## 3. 学術交流

学生と教員を含め約 50 名と参加人数が限定された本学会では、お互いの発表を聞き、成果について議論する十分な時間を得ることができた。セマンティックコンピューティング、データマイニング、アプリケーションやシステム開発、データモデリングなど、多様な分野に関する発表が行われ、特に教員が学



生の研究について、積極的にアドバイスを

(図2) EJC2018 委員会メンバーと交流

う穏やかな雰囲気の中で開催された。アジアと欧州からの参加者が多く集う本学会を通して、研究内容以外にもそれぞれの文化、言語、ジェスチャーやジョークの差異について議論し(図2)、その違いを価値のあるデータとしてどのように蓄積・分析・分類そして共有できるのか、柔軟なクロスカルチャーコミュニケーションを行うためにデータを応用する方法を提示する重要性があるのではないかと話し合った。